

あ と が き

この図集に集録された土壌断面は、14営林局および岐阜県林業試験場に採集を依頼して、集められた60余標本のなかから選んだものである。

第1集では基本土壌型の標準的な断面を集めたが、われわれが現実に見る森林土壌はこのような土壌ばかりではない。むしろ標準型からはずれたもの、中間型の土壌が多く、なかには土壌型の判定に苦慮するものさえある。

今回の編集では、その後新しく区分された土壌型、標準型からはずれるものであっても分布の広い土壌、生産力的見地から細分を要する土壌などの掲載に重点をおいた。また、将来、世界的な視野に立って、日本の森林土壌を再分類する場合に、必要と思われる要素を含んだ土壌も選んだ。たとえば、亜高山帯に広い分布をもつ暗色の土壌、低山・丘陵に見られる腐植の少ない赤褐色の土壌などがそれである。これらは、今後の調査・研究により、分類上の位置が確定し、新しい土壌型として区分される可能性がある。

土壌型判定のむずかしい土壌も、調査実行上の必要性を考慮して、あえて集録した。断面18（黒色土）がその例である。この土壌は新しい火山放出物の堆積層をはさんでいて、標準的な黒色土と著しく異なっている。もし火山砂層が厚ければ、当然 Im 型にすべきであろう。有機物の多い表土は、埋没して嫌氣的分解をうけるとまっ黒になる。埋没黒土層をはさんだ火山性未熟土は火山山麓に多く分布するから、どこまでを黒色土として扱うかに迷うことがしばしばある。断面23黄色土も土層の浅いこと、A層の発達していないことなどから Er 型とも考えられるが、他に適当な黄色土の標本が得られなかったため、不本意ではあるがこれを掲載した。

断面標本採集に協力していただいた大勢の方の努力にもかかわらず、当初、編集者が企画したとおりには土壌の種類を集めることができなかった。この点、はなはだ遺憾ではあるが、次の機会に追加・補充したいと考えている。

この図集で用いた層位記号は次のとおりである。

L：新鮮な落葉・落枝などの堆積層

F：落葉・落枝などがある程度分解してできた腐葉層。落葉などの原形を多少とどめている。

H：落葉などが原形をとどめないまでに分解した、いわゆる腐植層。少量の無機質土壌を混和しているが、大部分は有機物からなる。

L層・F層・H層を総称して有機物層（A₀層）ということがある。

A：腐植に富む、ないし含む表層土。ポドゾルの場合は溶脱層を指す。土色、構造、堅密度、その他によってA層内を区分できる場合は、A₁、A₂等の亜層に区分する。ポドゾルでは、A₁層は腐植に富む黒灰色の溶脱層、A₂層は腐植に乏しい灰白色の溶脱層をさす。

B：腐植を含む、ないし乏しい下層土。ポドゾルでは集積層をさす。亜層区分のできる場合は、B₁、B₂等に区分する。

C：風化過程にある基岩または母材料の層。層の分化が認められる場合は C₁、C₂等に区分する。

G：地下水面下にあり、グライ化作用をうけた、青灰色ないし暗緑色の土層（グライ層）。層位の分化が認められるときは G₁、G₂等に細分する。

g：斑鉄、斑紋などにより識別される弱度のグライ層。また、地下水と直接関係のないグライ化をうけた層にも

用いた。

この層は、同時に A, B 層の生成分化がおこなわれていることが多く、このような場合には Ag 層, Bg 層などとして表わす。

M: 菌糸の遺体が堆積した層 (菌糸網層)。

P: 泥炭地におけるミズゴケ、スゲ類など植物遺体の堆積層。まだ生きている植物体の堆積層を P₀ として区分し、泥炭層に亜層の区分の認められる場合は、P₁, P₂ 等に細分する。

中間層および推移層

各層の中間的な性質をおびて、いずれとも決めかねるような場合は、F-H, H-A, A-B等の中間層としてあらわす。また、いずれか一方の性質を強く感ずるときは、弱い方にカッコを付けて、(A)-B₁ 層等とする。

埋没土層

火山灰などの堆積によって埋没された土層に層位の分化が認められるときは、A', B', C' 等としてあらわす。火山噴出物が時代を異にして何回も堆積しているときは、上部から I, II, III等の記号をつけ、さらに層位の分化が認められるときは、I A, I B, II A等とする。

企 画 編 集

橋 本 与 良	竹 原 秀 雄	黒 鳥 忠	松 井 光 瑤	真 下 育 久
久 保 哲 茂	小 島 俊 郎			

土 壌 分 析

淘 汰 分 析	有 光 一 登			
母 材 検 定	木 立 正 嗣	吉 筋 正 二	丸 山 明 雄	
化 学 分 析	森 田 禧代子	鷹 見 守 兄	山 家 富美子	的 場 節 子

断面標本の採取

林 業 試 験 場	久 保 哲 茂	小 島 俊 郎	井 上 輝一郎	岩 川 雄 幸
旭 川 営 林 局	成 田 孝 一	青 木 直 敏	西 山 孝 英	
北 見 営 林 局	玉 木 武 男	故 川 代 善 一	小 西 武 義	
帯 広 営 林 局	出 口 英 伍	藤 原 忠 治	倉 島 和 夫	佐 藤 文 彦
札 幌 営 林 局	横 田 金太郎	小 沢 八 門	川 原 次 男	
函 館 営 林 局	渡 辺 至	石 垣 勉 治		
青 森 営 林 局	山 田 耕一郎	松 尾 弘	細 井 幸兵衛	白 川 清 治
	石 井 伊勢男	三 上 毅		
秋 田 営 林 局	加 納 健 治	金 田 幸 次	押 切 正 己	千 葉 謙
	鈴 木 信三郎			
前 橋 営 林 局	菊 池 基 彦	関 崎 正	平 野 隆 昌	
東 京 営 林 局	鈴 木 万	三 木 利 夫	高 橋 正 章	
長 野 営 林 局	林 信 一	下 出 旭 彦	福 島 道 夫	山 田 正 躬

名古屋営林局	田 中 良 平	樋 口 豊			
大阪営林局	栗 田 正 夫	落 合 圭 次	吉 沢 通	新 井 文 男	
	若 月 勇	奥 野 志	深 田 利	森 広 忠 治	
	松 原 清 勝				
高知営林局	吉 良 牧 夫	吉 村 弘 幸			
熊本営林局	明 石 諫 男	谷 口 吉 信	阪 本 蟬	男 成 正 清	
	芳 本 敏 郎				
岐阜県林試	竹 下 純一郎	中 村 基	岩 田 広 俊		

昭和 43 年 3 月 15 日 印 刷

昭和 43 年 3 月 20 日 発 行

林野土壤層断面図集 2

編 集 農 林 省 林 業 試 験 場
発 行 東京都目黒区下目黒 5—37—21
電 話 (711) 5 1 7 1

印 刷 半七写真印刷工業株式会社
東京都港区芝浦 2—1
電 話 (453) 2 7 0 1

図集No. 断面番号 土壌名(原報) 土壌型(土じょう部, 1976) 判定理由 注釈
1 BA型土壌 その1 BA 乾性褐色森林土(細粒状構造型) F,H-A層発達, M層(菌糸細層)の形成, B1層に図集1の土色表記はマンセル式ではない。
BA型土壌 その2 BA 乾性褐色森林土(細粒状構造型) M層
BB型土壌 BB 乾性褐色森林土(粒状・堅果状構造型) F,H層発達, B層の構造(上部に粒状, 下部に堅果状構造)
BC型土壌 BC 弱乾性褐色森林土 A-B, B層に堅果状構造
BD型土壌 BD 適潤性褐色森林土 A層上部に団粒状構造, 下部に塊状構造
BE型土壌 その1 BE 弱潤性褐色森林土 厚いA層に団粒状構造発達, 暗灰色を帯びたB層
BE型土壌 その2 BE 弱潤性褐色森林土 暗灰色を帯びたB層

BF型土壌及PWII型土壌の中間型土壌 Pw(h)II 湿性腐植型ポドソル化土壌 (A)-B1層に有機物の集積, 鉄の集積斑があり, ポドソル群土壌に分類するのが妥当と判断。
PDI型土壌及びPDI型土壌 その1 PDI 乾性ポドソル 溶脱層が明瞭なので, PDIに分類できると判断。
PDI型土壌及びPDI型土壌 その2 PDI 乾性ポドソル 溶脱層が明瞭なので, PDIに分類できると判断。
PDI型土壌 PDI 乾性弱ポドソル化土壌 肉眼では溶脱層の判別が困難, 集積層は判別できる
G型土壌及びPG型土壌 PG グライポドソル H-A層形成, A-B1層に細粒状構造, 菌糸
R型土壌 RB 乾性赤色土(粒状・堅果状構造型) A層上部に粒状, 下部に塊状構造で, 若干乾性の特徴あり
BI型土壌 BID(d) 適潤性黒色土(偏乾型)

2 1 乾性ポドソル PDI PDI 乾性ポドソル 層位名にB1g層があり, 表層還元の影響が記載されている。尾根部。
2 乾性ポドソル PDI 乾性ポドソル 英文版で変更されている
3 乾性ポドソル化土壌 PDII PDII 乾性ポドソル化土壌
4 乾性弱ポドソル化土壌 PDIII PDIII 乾性弱ポドソル化土壌
5 湿性ポドソル(鉄型) Pw(i)I Pw(i)I 湿性鉄型ポドソル化土壌
6 湿性弱ポドソル化土壌(腐植型) Pw(h)III Pw(h)III 湿性腐植型弱ポドソル化土壌
7 湿性弱ポドソル化土壌(腐植型) Pw(h)III Pw(h)III 湿性腐植型弱ポドソル化土壌
8 乾性褐色森林土(傾斜地型) BA BA 乾性褐色森林土(細粒状構造型)
9 乾性褐色森林土(緩斜地型) その1 BB BB 乾性褐色森林土(粒状・堅果状構造型)
10 乾性褐色森林土(緩斜地型) その2 BB(w) gBB 弱乾性表層グライ化褐色森林土(粒状・堅果状構造型)

11 弱乾性褐色森林土 BC BC 弱乾性褐色森林土
12 適潤性褐色森林土 その1 BD(d) BD(d) 適潤性褐色森林土(偏乾型)
13 適潤性褐色森林土 その2 BD BD 適潤性褐色森林土
14 適潤性褐色森林土 その3 BD BD 適潤性褐色森林土
15 適潤性褐色森林土 その4 BD BD 適潤性褐色森林土
16 適潤性褐色森林土 その5 BD-g gBD 適潤性表層グライ化褐色森林土
17 弱潤性褐色森林土 BE BE 弱潤性褐色森林土
18 適潤性黒色土 BID BID 適潤性黒色土
19 弱潤性黒色土 その1 BIE BIE 弱潤性黒色土
20 弱潤性黒色土 その2 BIE BIE 弱潤性黒色土
21 湿性黒色土 BIF BIF 湿性黒色土
22 弱乾性赤色土 RC RC 弱乾性赤色土

層位名にA1g層があり, 表層還元の影響が記載されている。英文版で変更されている

23 黄色土 (受蝕型) Y-Er	(Er)-YB 受蝕土的乾性黄色土 (粒状・堅果状構造型)	A層に粒状, B層に粒状構造,	英文版で変更されている
24 暗赤色土壌 その1	vDRB 乾性火山系暗赤色土 (粒状・堅果状構造型)	A層に粒状, B層に粒状構造,	英文版で変更されている
25 暗赤色土壌 その2	eDRC-mg マグネシウムを主とする弱乾性塩基系暗赤色土		英文版で変更されている
26 暗赤色土壌 その3	dDRD 適潤性非塩基系暗赤色土		英文版で変更されている
27 泥炭	Pt 泥炭		
28 泥炭土	Pt 泥炭土		
29 受蝕土	Er-β 受蝕土		
30 未熟土 その1	Im-V(g) 火山性未熟土		
31 未熟土 その2	Im-co-s 粗砂質未熟土		

土 壤 層 断 面 図 集 2

正 誤 表

ページ	行	誤	正
9	9	輝石類安山岩，火山噴出物の……	輝石類安山岩を主とする火山噴出物の……
14	下から 7	この土壌を	この土壌は
43	1	F 層	<u>A₀ 層</u>
47	1	平坦地に近い、微凹形緩斜面で、	<u>山腹斜面にある棚状緩斜面で、</u>
49	5	土壌全般に	<u>土層全般に</u>